



英語

tadotte@asahi.com

をたどってV

4

大学入試の英語が大きく変わりそうだ。5月に文部科学省が発表した。

ざっくりいうと、現在の大学入試センター試験を「大学入学共通テスト」（仮称）に変える。その際「読む」「聞く」だけから、「話す」「書く」も加える。そのため、英検やTOEFLなど内外の民間試験を使う。早ければ2020年度から始める。

「センター試験の英語は、筆記が200点でリスニングが50点だから、言ってみれば1・25技能の試験。これが4技能均等になるのは、科目全体が変わるぐらいのインパクトがある」

学習指導要領は4技能を総合的に養うよう求めている。「それなのに大学入試は1・25技能。良心的な高校の先生ほど指導要領と入試の『股裂き』状態になる。『話す』授業をしたくてもできない」

大学側はどう受け止めているのだろうか。特に、英文学

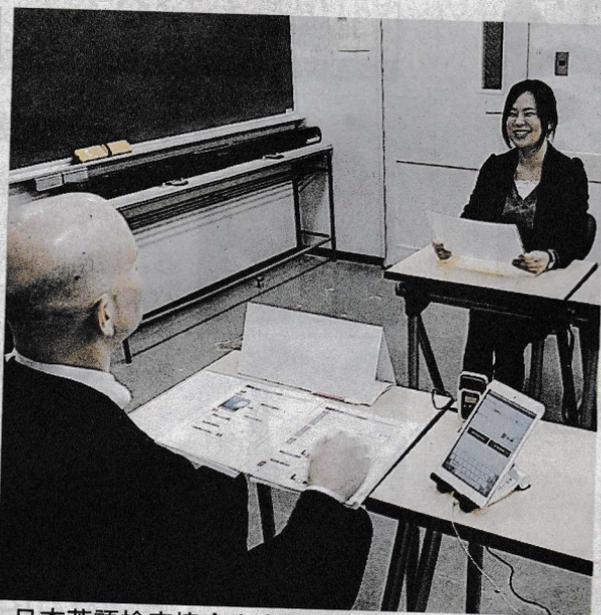
紙上ディベート 入試改革



安河内哲也



阿部公彦



日本英語検定協会と上智大学がつくったテスト「TEAP」のスピーキング試験のイメージ。すでに入試に使う大学も＝日本英語検定協会提供

の産い欲ッる勉外をう的るろとに反論ベ

航目的に限ることを嚴格に
質的な制裁強化の理由に、
「引だ」とし、覆すことを
い」と述べた。
原因はわからな
2月に北朝鮮
ていたジャケッ

の先生は。

東大文学部准教授の阿部公彦(50)は「入試問題は『こういう勉強をする人たちに来て欲しい』という大学からのメッセージでもある」と説明する。

「受験生はそれに向かって勉強する。これは自然なことでしょう。それを業者試験に外注しろというのは、方向性を示す責任を放棄しているように見える」

大学が受験生との間で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度に水をさす、ということか。

安河内に伝えると、猛然と反論した。2人の主張をディベート形式で紹介すると、こんな感じだ。

安河内「まったく理解できない。それで指導要領を無視していいの。東大ではないが、ある有力大学では例年、高校生には手に負えないような難解な英文和訳を出す。あれでは高校も予備校も暗号解読みたいな授業になってしま

う。入試で先生や生徒をいじめないでほしい」

阿部「英検にせよ、TOEFLにせよ、日本の受験生のため、日本の大学のためには作られてはいない。今のセンター試験は問題が新聞に載るなど世の中からの一定の監視作用がある。TOEFLは問題を公開していない。批判にさらされない」

安河内「大事なのは日本の英語教育を世界標準に合わせ

ること。国際的に通用する試験を行うこと。いまはガラパゴス化している」

阿部「英文和訳は、半分は日本語の運用能力を試す試験でもある。異なる言語を言い換えるなかで、さまざまな気づきがあるし、運用能力が高まる。そもそも読解とリスニングしか出さないから、英語が出来るようにならないというのは短絡的」

それにしてもこの問題、毎年50万人が受ける試験の歴史的ともいえる変更なのに、いま一つ盛り上がりがないようだ。大人たちにとって入試はしよせんひとごとだからか、あるいは文科省のあの問題に目が行くからか。 〓敬称略

(刀祢館正明)